

ドイツにおけるスタートアップ国際展開支援策に関する調査

商工労働部 経済政策課 副主査 稲葉 言史 | 産業振興課 技師 青木 亜由美 | 企業立地課 副主査 地頭 蘭 亘

研修先

ドイツ(デュッセルドルフ・ベルリン)

研修期間

令和5年8月12日～20日(9日間)

背景・目的

政府がスタートアップ(SU)育成の取組みを本格化し、全国にその動きが広がっている。グローバル市場でも活躍できるSUを千葉県から輩出していくことが重要である。

➡ 海外における先進事例を調査することで、国際展開に係る課題を把握し、効果的な支援策を検討する。



調査結果・考察

○外国SUの誘致について

- 脱炭素などの社会課題を解決し、サステナビリティの実現を目指す外国SUの積極的な誘致が行われている。
⇒ 世界中で共通して存在する普遍的な社会課題に取り組むSUは、国際市場で需要が高まっている。

○産学連携について

- 大学や大学病院が有する研究成果や特許の事業化が盛ん。大学の技術移転部門が主体となり、学生や研究者を対象としたアクセラレーションプログラムやメンタリング等の支援が行われている。また、公的助成金、学生、メンター等の様々なリソースを共有し、大学や大学病院による組織の枠を超えた起業支援が行われている。
⇒ 本県には千葉大学をはじめとする多くの高等教育機関や研究機関が存在。多岐にわたる研究活動の成果は、社会課題解決を目指すスタートアップとしての実用化が期待できる。

○SUの国際展開支援について

- 各国で開催される大規模なSUイベントへ企業ミッション団を派遣し、ブース出展やピッチ機会の提供を通じて現地の投資家やビジネスパートナーとつなぐ取り組みが行われている。
⇒ SUの国際展開を後押しするためには、メンタリング等によるノウハウ面の支援だけでなく、現地の投資家やビジネスパートナーとのマッチング支援も必要。そのためには、現地のSU支援機関が持つノウハウやネットワークを活用することが重要。